◎**今週の御言葉**　「旅のためには杖１本」（ｱﾓｽ書7章10～15節、ﾏﾙｺの福音書6章1～13節）　「しかし、主が、群れの世話をしていたところから私を取り、主が私にこう言われた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。」（7:15）　「旅のためには、杖一本のほか何も持たないように、パンも、袋も、胴巻の小銭も持って行かないように、履き物ははくように、しかし、下着は二枚着ないようにと命じられた。」（6:8,9）

◎私達はそれぞれの人生を歩んでいく時、どうしても必要なものが何であるのか？　そのことを改めて見直したい。

◎アモスはイスラエルのヤロブアム2世、ユダの王ウジヤ（アザルヤ）の治世(BC760－750年）に活躍した預言者。アモスはユダの片田舎で羊を飼い、いちじく桑の木を栽培していた。神様はアモスに未来の幻を見せ(1:1)、ご自分のメッセージを北王国イスラエルに伝えるよう命じた(7:15)。アモスは神様に従い、自分が神の人であることを証明した。

7章以下に続くいくつかの幻は、いなごや火、下げ振りを使って神のメッセージを語っている。イスラエルに迫り来る神の罰の幻を二度見せられたアモスは、直ちにそれらへの応答として、神がイスラエルを赦してくださるように祈った。

◎マルコの福音書6章でイエス様は、数日間ナザレに帰り、ご自分の郷里で拒絶された後、至る所で福音を広める任務を弟子たちに与えられた。弟子たちは2人1組で遣わされた。

２人で遣わされる利点。①互いに強め合い、励まし合うことが出来る。②拒絶されたとき、慰め合える。③判断が的確になり、間違いが生じにくくなる。④怠惰や無関心への反対行動を互いに促すことが出来る。弟子たちは、杖のほかは何も持って行ってはならないと指示された。弟子たちは持ち物よりも神様の守りに信頼して、出発することなのです。

「杖」。モーセの杖(出エジプト記):「手に持っていた(羊飼いの持っている杖)」(4:2)。①「杖が蛇になる」(4:3,4)、彼らの父祖の神、主が現れたことを信じるため(4:5)。②「しるしを行う」ために神様の道具として用いられる(4:17)。③エジプトにおいても「神がともにいるしるし」となる(4:20)。

④「杖を上げ、手を海に差しのばし、海を分け、イスラエル人が海の真ん中の乾いた地を進む」(14:16)ー「主の救いのしるし」(14:12)、前には紅海、後ろにはエジプトの軍隊に囲まれたイスラエルの窮乏からの救い、火と雲の柱に守られ、導かれる(14:27)。⑤「岩を打つと水が出る」メリバの水(17:5,6)、民の叫びに答えられる神の御業。⑥「杖を取れ、岩に命じよ」(民数記20:8,9)、メリバの水、モーセは「岩に命じよ」と言われたにも関わらず、「岩を二度打った」事による苦い経験をする。私たちに対する教訓となる。